

日本海洋学会 2014 年度第 3 回幹事会 議事録 (案)

日時：2014 年 7 月 25 日 (金) 13：30～17：20

場所：パレスサイドビル・マイナビルーム 9 F・B

出席者：植松会長、岡、河野、杉崎、山中、鈴木、津田、原田、寄高、神田 (記録)、事務局・毎日学術フォーラム (平坂)

議題：

1. 議事録 (案) 確認 (神田幹事)

2014 年度第 2 回幹事会の議事録を承認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について (岡幹事)

2014 年 4～5 月の入退会を承認した。入会 38 名、退会 7 名、逝去 1 名、2014 年 5 月末現在会員数 1713 名。2～3 月の退会者による減少分はあまり回復してない。

(2) シンポジウム等の後援・協賛等について (岡幹事)

後援・協賛等は資料にある 5 件と追加 (1-6 女子中高生夏の学校 2014 の協賛) について承諾したことが報告され、幹事会として承認した。

(3) 募集・推薦等の依頼について (岡幹事)

公募・推薦の依頼 10 件、シンポジウム・講演等の案内 4 件、その他 6 件について、ML 配信その他の対応をしたことが報告された。

(4) 研究発表：2014 年秋季大会シンポジウム開催承認について (鈴木幹事)

秋季大会での 4 件のシンポジウム開催申請について資料に基づき説明があり、開催を承認した。

(5) 選挙：2014 年度選挙の予定について (山中幹事)

資料に基づきスケジュールの説明があり、承認した。選挙管理委員会を設置し、委員長を山中幹事とすることを承認した。現在は名簿情報の確認中 (7 月 28 日〆切) で、8 月中旬に地区別会員数および評議員割当数が決まる。

なお、名簿情報確認の際に本人認証のステップがなく、他人に会員番号を知られてしまうと、勝手に会員情報が変更されてしまうという指摘が会員からあったことが報告された (岡幹事)。データベース自体にアクセスできるわけではないので、今年度はこのまま確認を行うが、今後対応を検討することとした。

(6) 事業年度について (岡幹事)

会則や事業年度の改訂によって生じうる問題点を整理した資料にもとづき議論した。大会開催のあり方等も含めて関係する問題が多いことから引き続き検討を継続する。

(7) 奨励論文賞の副賞

奨励論文賞の副賞を毎年 20 万円寄付してきた海ロマン 21 から、寄付を半額の 10 万円としたい意向が伝えられ、対応を協議した。受賞者は引き続き 2 名以内とし、賞金は 1

人 5 万円（現行 10 万円）とすることとした。

3. 報告事項

(1) 会長（植松会長）

海の日に関連し、東京大学海洋アライアンスによるシンポジウム「海洋研究と社会の接点」、海洋教育フォーラム「海の学びの万華鏡」が行われた。佐野有司会員、桜井泰憲会員が海洋立国推進功労者表彰を受けた。海洋未来技術研究会が解散する予定となった。海ロマン 21 からの寄付金が減額される。文部科学大臣表彰、日本学術振興会育志賞に会員を推薦した。

(2) 副会長（植松会長代）

JOS ニュースレターに学会動向を取りまとめて投稿した。海洋未来技術研究会による海外渡航援助について、前期採択分 2 件のうち 2 名が完了した。後期の募集は 6 月 30 日に開始した。

(3) 庶務（岡幹事）

才野会員の逝去に伴って空席が生じた評議員に島田浩二会員を追加委嘱した。三賞選考委員会に宗林由樹会員、論文賞選考委員会に齊藤宏明会員、河宮未知生会員を追加委嘱した。会員名簿を作成中である。

(4) 編集

・JO（植松会長代）

順調に発行している。8 月 1 日から投稿料の課金が始まるが、駆け込み投稿は目立たない。中村尚会員および本多牧生会員の提案した特別セクションがそれぞれ編集中である。

・海の研究（岡幹事代）

順調に刊行しており、23-6 号まで掲載論文が決まっているが、査読中が 5 編とやや少ないので、投稿の呼びかけをお願いしたい。

・NL（津田幹事）

4 巻 2 号の原稿は印刷会社に提出済み。新たな企画として「リサーチハイライト」のようなものを考えているので、執筆者の推薦、協力をお願いしたい。

(5) 研究発表（鈴木幹事）

長崎大の大会準備が進んでおり、学会から大会実行委員会に開催費として 100 万円を追加送金した。研究プロジェクトの紹介のために、展示スペースを利用したいとの要望があったことが報告され、東大海洋アライアンスの先例もあり特に問題はないので実行委員会に委ねることとした。同様の要望が潜在的にあることも考えられ、今後は大会実行委員会で対応可能であれば積極的に宣伝していくことが検討された。秋季大会ではプレナリーセッションが設けられ、見延庄士郎会員、古谷研会員、三菱重工・磨田徹氏の基調講演がある。大会実行委員会と幹事会の関係について、意見交換した。

(6) 広報（杉崎幹事、原田幹事）

学会ホームページに「行事一覧」ができた。より見やすくするように検討する。NLのカレンダー欄の情報も活かすように検討する。現在農水省のサーバーにある海洋環境問題研究会のホームページについて、学会ホームページと同じ業者のホームページに移行する。大会での研究発表について、秋季大会でもプレスリリースを行いたい。

(7) 海洋環境委員会（鈴木幹事）

青い海助成事業の2次募集について引き続き検討中である。

(8) 日本地球惑星科学連合（原田幹事）

長谷川拓也会員（JAMSTEC）、原田幹事がプログラム委員に就任した。

(9) 海洋未来技術研究会・日本海洋科学振興財団（植松会長代）

解散予定となった海洋未来技術研究会からの海外渡航援助は1992年から総額814万円を超えており、秋の評議員会、春の総会で紹介して、感謝の意を表したい。

(10) 震災対応（神田幹事）

東大出版会からの単行本が刊行予定の運びとなった（植松会長から補足）

(11) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

5月21日に協議会が開かれ、11月に学術フォーラムを開催する等の活動予定を決めた。

(12) 若手支援（植松会長代）

長崎の秋季大会で若手懇談会を開催する。

(13) 大会運営検討WG（鈴木幹事）

議論のためにセッション制の大会準備のスケジュール・シナリオを作ってシミュレーションした資料が紹介された。シンポジウムの開催可否判断、シンポジウム主催者に費用負担を課すか、非会員の講演者・参加者の扱い、セッション制への移行、大会スタイル決定についての大会実行委員会と幹事会の責任分担、等の様々な検討事項があることが報告され意見交換した。その他、大会運営のアウトソーシング契約の適正化、諸会議の弁当手配が実行委員会の負担になっていること、などの指摘があった。大会実行委員会同士で直接の資金を受け渡す方法は取りやめ、学会からの資金前渡しに集約することを確認し、当面は初期運転資金として100万円を前渡しすることとした。またWGは、シンポジウムへの偏りなど現状の問題点の解決と、会員にとって魅力ある大会内容の提案を目指し、必要に応じて会則の変更も視野に入れた提言案を作成することが確認された。

(14) 海洋観測ガイドラインWG（河野幹事）

6月13日に第2回会合を開き、目次の概略を決定した。9月3日に次回の会合を開き、幹事会等へ提案する。